

令和7年北海道森づくり研究成果発表会について

企画調整部普及グループ主査（普及）阿部 哲也

道総研森林研究本部（林業試験場・林産試験場）では、北海道水産林務部との共催で、令和7年5月15日（木）、北海道立道民活動センター「かでの2・7」（札幌市）において、令和7年北海道森づくり研究成果発表会を開催しました。本発表会では、森林整備や木材利用に関する研究成果、地域における技術普及や活動事例の紹介など、本道における森づくりや木材利用に関する知識を深め、技術の向上を図ることを目的に一般発表と道総研研究成果発表に分けて開催しました。

午前中の一般発表では、国の行政機関や研究機関、民間企業などから口頭発表4課題、ポスター発表6課題の計10課題の発表が行われました。口頭発表では、近年優良品種として増産が進められているクリーンラーチに関する内容や胆振地区の林業従事者による普及啓発活動の取組について紹介され、ポスター発表会場では、天然更新地の保育試験や鳥類保全につながる人工林管理について紹介するポスターを展示しました。

午後からの道総研研究成果発表（林業試験場・林産試験場）では、「森林資源循環利用のために」と「森林の役割と森からの恵み」の2テーマに沿って、口頭発表11課題、ポスター発表30課題の計41課題の発表を行いました。道総研研究成果発表における口頭発表では、今後、変動する気象条件を踏まえたトドマツ・カラマツ類の生育適地の予測や最適配置による炭素吸収量の増加効果、防風林管理が担う生物多様性保全と今後の課題などを紹介し、来場者からは多くの質問が寄せられました。

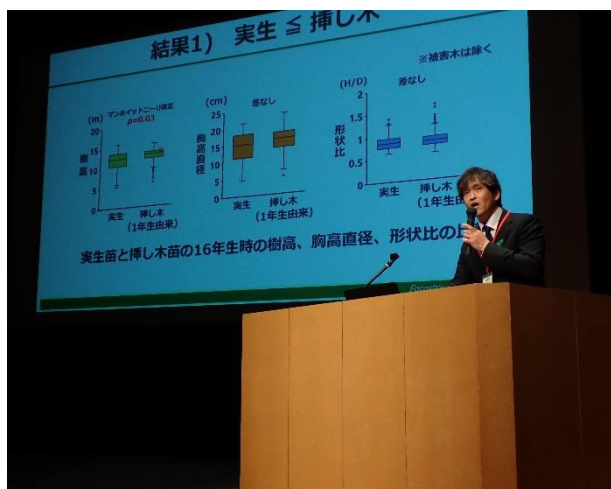
また、今回の口頭発表では、初めての試みとして、林産試験場・大学・民間企業が共同で行った研究した内容を3者によるリレー形式で発表をし



口頭発表会場の様子（かでのホール）



森林研究本部長より発表概要を説明
（かでのホール）



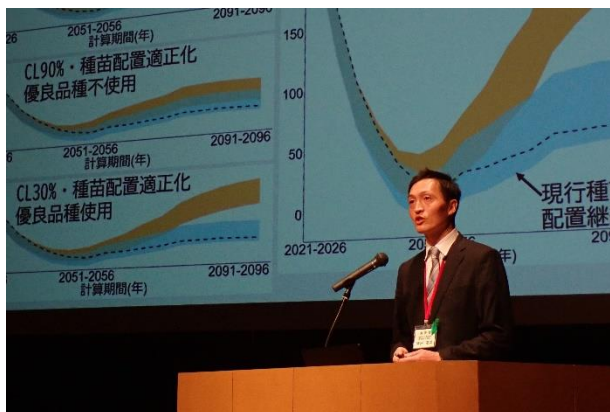
口頭発表の様子1（かでのホール）

ました。参加者から、次の話題にどのようにつながり展開されるのか興味を持って聴けたなどの意見をいただきました。

ポスター発表会場には、研究内容を紹介したポスターの他、それに関連した成果品や機材を展示しました。そして、林業試験場からは、一昨年度内で初めて確認されたカシノナガキクイムシによる「なら枯れ被害木処理の手引き」や森林に食害などを与えるエゾヤチネズミを捕獲する自動リセット式補殺器の実物などを展示しました。林産試験場では、圧密技術を道産カラマツに応用し作成した家具の展示やAI 技術を解説する動画の上映などを行いました。

当日は、林業・木材産業関係企業をはじめ行政機関や研究機関など約 200 名の方々に来場をいただきました。御来場の皆様から、多くの御質問や貴重な御意見をいただくことができ、林業・林産業に対する関心と研究成果の実用化への期待の高さを改めて実感する発表会となりました。

次のページより、林業試験場のポスター発表全 10 課題を紹介していますので、ぜひ御一読ください。



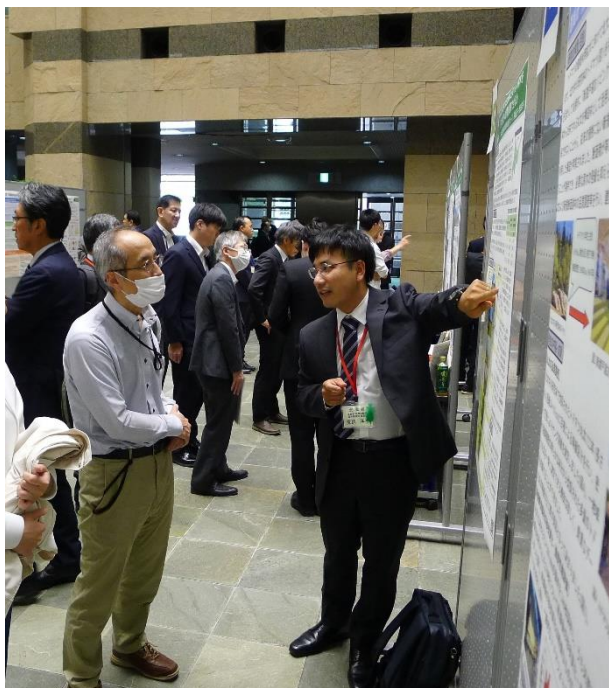
口頭発表の様子 2（かでのホール）



ポスター発表会場での意見交換 1（展示ホール）



林産試験場長による閉会あいさつ（かでのホール）



ポスター発表会場での意見交換 2（展示ホール）